

東京大学
東洋文化研究所

要覧 昭和59年度
昭和60年 追補

1985

東京大学東洋文化研究所



6413042752

C3

45

8-2

目 次

1. 昭和 59 年度（含 60 年度当初）教職員の異動…………… 1
2. 昭和 60 年度研究計画…………… 2
3. 定例研究会等（昭和 59 年度）……………13
4. 外国人研究員等・内地研究員等（昭和 59 年度）……………16
5. 研究報告（昭和 59 年度）……………18
6. 東洋学文献センター（昭和 59 年度）……………20

1. 昭和59年度（含60年度当初）教職員の異動

（教官）

昭和	59. 9. 1		鎌田 繁	助教授（西アジア部門）に採用
	59.12. 1	助教授	松谷 敏雄	教授（西アジア部門）に昇任
	60. 2. 7	教授	深井 晋司	死亡退職（西アジア部門）
	60. 3.31	教授	大野 盛雄	停年退職（西アジア部門）
	〃 〃 〃	助手	加藤 博	辞職（東洋大学講師）
	60. 4. 1		関本 照夫	助教授（汎アジア部門）併任
	〃 〃 〃	助手	清水 展	九州大学助教授昇任
	〃 〃 〃		土佐 弘之	助手（南アジア部門）に採用
	〃 〃 〃		吉田 純	助手（東アジア部門(第二)）に採用
	60. 5.21	元教授	大野 盛雄	名誉教授の称号授与

（職員）

昭和	59. 6.30	図書掛	中村摩利子	退職
	59. 8.16	会計掛	山本日出夫	文部省学術国際局国際学術課に配置換
	59.10. 1	総務主任	中屋 俊一	物性研究所会計主任に配置換
	59.10.16	人事課	瀬見千恵子	会計掛に配置換
	59.11. 1	図書館総務主任	土居 喜公	総務主任に配置換
	60. 4. 1	図書掛	工藤 一郎	教養学部図書館整理掛長に昇任

2. 昭和60年度研究計画

〔部門研究〕

汎アジア部門 アジア諸地域における社会・文化の変容過程

I. アジア諸社会の固有文化とその変容

1. 中根 千枝 チベット社会の統合とその変容過程
2. 松谷 敏雄 アジアの先史時代における農耕村落の研究
3. 関本 照夫 インドネシア社会の統合過程
4. 川崎 有三 東南アジアにおける中国系社会の研究

II. アジア諸国経済発展の比較研究

5. 山田 三郎 アジア諸国経済発展のメカニズムと地域的特性
6. 原 洋之介 アジア諸国の経済発展と労働市場
7. 福井 清一 アジア諸国の経済発展と企業内労働市場の形成

III. アジアにおける政治変動と国際関係

8. 関 寛治 世界軍事バランスの変動と太平洋・インド洋地域における紛争
9. 猪口 孝 西太平洋諸国における政治経済変動と対外政策

IV. アジアにおける都市と農村

10. 友杉 孝 日本とタイとスリランカの比較研究

東アジア部門 (第一) 東アジアにおける国家権力と社会経済機構

1. 松丸 道雄 中国古代国家の形成
2. 谷 豊信 東北アジア諸地域の国家形成
3. 池田 温 東アジア前近代国制の比較史

4. 上田 信 明清時代の社会経済構造
5. 濱下 武志 中国近代の経済発展
6. 久保 亨 民国時代の社会経済構造
7. 宮嶋 博史 近代朝鮮の社会経済構造

東アジア部門 (第二) 東アジアにおける庶民文化の形成と展開

8. 鎌田 茂雄 庶民信仰の宗教形態
9. 蜂屋 邦夫 庶民における三教思想の受容
10. 尾上 兼英 明清の説書・説唱演芸
11. 田仲 一成 明清の地方劇
12. 戸田 禎佑 宋元の民間画工
13. 吉田 純 明清の儒学

南アジア部門 南アジアにおける支配体制と社会構造

1. 山崎 利男 古代インド社会の変貌
2. 柳澤 悠 近現代インドの経済構造
3. 竹中 千春 近現代インドの政治構造
4. 松井 透 イギリス植民地支配と南アジア社会
5. 加納 啓良 インドネシアにおける植民地支配と農業問題
6. 山田 三郎 東南アジア農業社会の比較研究
7. 原 洋之介 東南アジアの支配体制と経済発展
8. 土佐 弘之 東南アジアの社会変動と権力構造

西アジア部門 西アジア文化の歴史的形成と現代的課題

1. 松谷 敏雄 北シリアにおける農耕・牧畜の起源について
2. 鈴木 董 オスマン帝国の政治社会史的研究
3. 鎌田 繁 イスラム神秘思想の構造と展開

〔班 研 究〕

アジア諸社会における伝統的社会組織とその変容過程 主任 中根

1. 中根 千枝 中国西北部藏族社会の変容過程
2. 関本 照夫 ジャワにおける儀礼的集合の構造と政治的統合の過程
3. 末成 道男 台湾原住民と漢人の接触過程
4. 川崎 有三 マレーシア中国系社会における文化変容
5. 結城 史隆 フィリピン・ミンダナオ島焼畑耕作民の社会組織とその変容
6. 船曳 建夫 ヴァヌアツ内部の社会・文化の基礎的単位の存在様態と序列化
7. 富沢 寿勇 伝統的マレー王権の現代的展開
8. 栗田 博之 パプアニューギニア・ファス族のロングハウス・コミュニティの変容過程

アジア農村の現地研究の方法と過程 主任 友杉

1. 宮口 侗廸 山村の構造—日本—
2. 友杉 孝 むらと水利—タイ—
3. 堀井 健三 米作農村と土地所有—マレーシア—
4. 菱口 善美 村落と農業—インド, バングラデシュ—
5. 中村 尚司 共同体と水利—スリランカ—
6. 後藤 晃 灌漑農業論—西アジア—

アジア諸国における農村開発 主任 山田

1. 山田 三郎 アジア諸国の農村開発政策と農民の対応

2. 原 洋之介 アジア諸国の農村制度の経済分析
3. 福井 清一 アジア農村における土地、労働制度の比較研究
4. 荏開津典生 アジアの農産物価格政策と日本の経験
5. 田中 学 戦前期日本における土地改良事業と農村社会—アジア農村社会の開発との比較研究—
6. 加納 啓良 東南アジアの土地制度と農村開発
7. 栗木レタンギェップ 農村制度の経済理論
8. 本台 進 農村開発と部門間資源移動
9. 米倉 等 インドネシアの農村開発
10. 藤田 夏樹 アジア農村における労働市場の構造

アジアの安全保障とその国内的基盤 主任 猪口

1. 猪口 孝 アジア諸国の政治経済システム
2. 鴨 武彦 アジア・太平洋地域の相互依存
3. 関 寛治 アジアにおける平和設計とその国内的条件
4. 進藤 栄一 アジアの冷戦と同盟関係
5. 高木誠一郎 安全保障のアジア的特質
6. 薬師寺泰蔵 アジア諸国の政策決定過程
7. 山本 吉宣 東アジアの国際政治経済

アジアにおける国内政治と国際政治 主任 関

1. 関 寛治 インド洋地域における開発と紛争
2. 石井 明 中ソ関係とその国内的基盤
3. 石田千代子 国際システムの情報探索とシミュレーション
4. 板垣 雄三 イスラム社会運動と国際政治
5. 坂本 義和 世界秩序とイスラム的社会変革
6. 高柳 先男 ヨーロッパとアジアにおける安全保障の比較研究

7. 平野健一郎 日中関係とその国内政治的要因
8. 藤井 昇三 中国における軍部と政治
9. 森 利一 ソ連外交とインド洋世界
10. 山影 進 東南アジアにおける相互依存
11. 森山 茂徳 東北アジアの国際環境と日韓関係

植民地体制と農業の商業化 主任 松井

1. 濱下 武志 中国
2. 宮嶋 博史 朝鮮
3. 加納 啓良 インドネシア
4. 原 洋之介 タイ・マレーシア
5. 松井 透 北インド・ビルマ
6. 柳澤 悠 南インド
7. 友杉 孝 スリランカ
8. 加藤 博 エジプト

殷周時代の文物とその社会構造 主任 松丸

1. 松丸 道雄 殷周青銅器の製作事情とその国家構造
2. 持井 康孝 窖蔵青銅器から見た殷周時代の社会構造
3. 飯島 武次 殷周時代の玉器と青銅器との関わり
4. 量 博満 倣銅土器製作の社会的背景
5. 豊田 久 殷周出土文字資料から見た君主権の構造
6. 後藤 均平 殷周時代の出土遺物と都邑
7. 平勢 隆郎 殷文化と楚文化
8. 谷 豊信 殷周文化と東北古代文化
9. 小倉 芳彦 新出竹帛書と古典
10. 宇都木 章 出土遺物による殷周史再構の可能性

六朝隋唐時代の思想と礼制 主任 蜂屋

1. 蜂屋 邦夫 六朝隋唐時代の儒家思想
2. 戸川 芳郎 経典解釈史から見た儀礼疏
3. 澤田多喜男 儀礼疏を通じてみた疏学の位置づけ
4. 高橋 忠彦 鄭玄三礼注と儀礼疏
5. 影山 輝国 白虎通義と儀礼疏
6. 吉田 純 漢魏六朝期の経典解釈学
7. 丘山 新 仏典の翻訳と伝統思想
8. 末木文美士 六朝思想に与えた仏教の影響
9. 藤本 幸夫 朝鮮文献よりみた中国古代禮制
10. 松岡 栄志 六朝の文学思想
11. 菅野 博史 六朝思想における仏性思想
12. 杉村 邦彦 六朝隋唐における書論の思想

中国仏教思想の形成過程 主任 鎌田

1. 蜂屋 邦夫 形成期の中国仏教思想
2. 福井 文雅 道経思想の形成と仏教
3. 平井 俊栄 三論思想の形成過程
4. 池田 魯参 天台思想の形成過程
5. 鎌田 茂雄 唐代仏教史の諸問題
6. 江島 恵教 中観思想の中国的変異
7. 袴谷 憲昭 唯識思想の中国的変異
8. 木村 清孝 華嚴思想の形成過程
9. 吉津 宜英 華嚴と禅との交流
10. 石井 修道 禅思想の形成過程

東アジア前近代官僚制の研究 主任 池田

1. 太田 幸男 秦漢官吏支配の形成
2. 福井 重雅 漢代官吏登用制度の形成と構造
3. 工藤 元男 秦漢官僚制の構造
4. 尾形 勇 中国古代国家構造と官人支配
5. 池田 温 隋唐官人制の構造と特質
6. 岡野 誠 中国律令と官僚支配
7. 佐竹 靖彦 宋元時代の官僚制度
8. 小口 彦太 中国伝統官僚制の解体
9. 西澤奈津子 職員令の構成と性格
10. 高塩 博 日本律令官人の法制と特質
11. 石上 英一 日本律令官制の形成と展開

閩粵の地域社会と地方文学 主任 田仲

1. 尾上 兼英 広東の民謡（木魚書）
2. 田仲 一成 広東の演劇（粵劇，潮劇，恵劇）
3. 濱下 武志 広東の経済と地域社会
4. 平山 久雄 閩粵の言語
5. 王 崧 興 閩粵の習俗
6. 片山 剛 広東の村落
7. 戸倉 英美 広東の民謡（山歌）と民話
8. 西川喜久子 広東の宗族

17世紀以降東アジア公私文書の総合的研究 主任 濱下

1. 濱下 武志 17世紀以降東アジア経済の展開—欧米の公私文書分析を含めて—
2. 岸本 美緒 明清期経済の動態と意識の構造
3. 上田 信 明清契約文書より見た社会関係

4. 寺田 浩明 明清期の契約法慣習の論理
5. 白井佐知子 清末契約文書の社会経済史的分析
6. リンダ・グローヴ 民国時代公私文書より見た農村経済
7. 久保 亨 民国時代公私文書より見た経済構造
8. 宮嶋 博史 朝鮮近代公私文書の社会経済的分析

現存する中国絵画の包括的再検討と国内国外に於ける補足的調査

主任 戸田

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 戸田 禎佑 2. 海老根聡郎 3. 嶋田 英誠 4. 関口 正之 5. 湊 信幸 6. 柳澤 孝 7. 小川 裕充 8. 宮崎 法子 | } 特に専門別の分担を定めず、本年は仏画に関する検討、調査を重点的に行なう。 |
|--|--|

1930年代左翼文芸運動 主任 尾上

1. 尾上 兼英 左翼文芸運動における民間形式の発掘と継承
2. 芦田 肇 日本プロレタリア文芸理論と左翼文芸運動
3. 伊藤 虎丸 左翼文芸運動と郁達夫
4. 尾崎 文昭 北京文壇からみた上海の左翼文芸運動
5. 近藤 龍哉 左翼作家連盟東京支部
6. 佐治 俊彦 左翼作家連盟に影響をあたえた諸思潮
7. 丸山 昇 30年代左翼文芸運動における魯迅
8. 溝口 雄三 左翼文芸運動の思想史的背景

朝鮮における社会変動と民衆—李朝期から近代まで— 主任 宮嶌

1. 武田 幸男 李朝後期の身分制とその変動
2. 吉田 光男 李朝戸籍を通じてみた社会変動
3. 吉野 誠 李朝後期の国家財政と社会変動
4. 山内 弘一 李朝後期の地方財政
5. 鶴園 裕 李朝後期における在地支配の変動
6. 小川 晴久 ソンビと実学
7. 姜 東 鎮 「明治」期日本言論界の朝鮮問題論
8. 梶村 秀樹 1910年代の社会経済変動
9. 宮嶌 博史 土地調査事業と農村構造の変動
10. 尹 健 次 朝鮮民衆運動における民族意識と国家意識
11. 馬淵 貞利 近代朝鮮農村の変容相
12. 宮田 節子 1920年代の地方支配と府・面協議会
13. 姜 徳 相 独立運動における社会主義と民族主義

南アジアにおける社会構造と伝統文化 主任 山崎

1. 山崎 利男 北インドにおける社会構造と法
2. 辛島 昇 南インドにおける社会構造と文化
3. 松井 透 北インドにおける社会構造と農業技術
4. 長崎 暢子 北インドにおける民衆意識と政治的行動
5. 中里 成章 ベンガル農村における経済変動と下層民衆
6. 柳澤 悠 南インド農村における社会変動と下層民衆
7. 奥平 龍三 ビルマの国家と伝統法
8. 石井 米雄 タイの民族形成と伝統文化
9. 井東 猛 インドネシアの諸国家と伝統文化

南アジアにおける社会変動と民衆意識 主任 加納

1. 加納 啓良 インドネシアの社会変動と農村構造
2. 白石 隆 インドネシアの民族形成と民衆意識
3. 土佐 弘之 フィリピン・インドネシアの経済開発と都市民衆
4. 古田 元夫 ベトナムにおける社会階層と民衆意識
5. 白石 昌也 ベトナム農村社会の変動と民族形成
6. 友杉 孝 タイの社会変動と民衆意識
7. 末廣 昭 タイにおける資本蓄積と社会階層
8. 古賀 正則 北インドにおける経済変動と下層民衆
9. 佐藤 宏 北インド米作地帯の経済変動と農民生活
10. 竹中 千春 近代インドの政治と民衆
11. 中村 平次 インド亜大陸における諸民族形成

アジア都市比較の課題と方法 主任 友杉

1. 陣内 秀信 江戸・東京の都市空間の特質
2. 友杉 孝 タイ・スリランカの地方商業都市
3. 坂本 勉 近代イラン・トルコ都市の比較
4. 鈴木 董 近世トルコの都市
5. 本村 凌二 古代地中海都市の特質

近代世界におけるアジアとヨーロッパ 主任 松井

1. 濱下 武志 銀流通より見たヨーロッパとアジア
2. 川北 稔 イギリス工業化前史とアジア
3. 山口 博一 イギリス帝国におけるエリート養成政策
4. 宮脇 博史 植民地支配における日本とイギリス
5. 小西 鮎子 フランス人の中国観
6. 岡本 サエ 中国人のヨーロッパ観
7. 土屋 健治 インドネシアにおける西欧思想とナショナリズム

- 8. 石井 米雄 タイにおける知識人の西欧思想受容
- 9. 山崎 利男 インドにおける伝統と植民地法
- 10. 松井 透 イギリス人の世界理解とインド支配
- 11. 鈴木 董 ヨーロッパにおけるオスマントルコ観の変遷

アジアのイスラム 主任 松谷

- 1. 松谷 敏雄 西アジアの基層文化
- 2. 中村廣治郎 中世イスラムと政治
- 3. 佐藤 次高 イスラム社会経済史研究
- 4. 鈴木 董 トルコ・イスラム社会の研究
- 5. 鎌田 繁 イラン伝統文化における宗教思想
- 6. 加納 啓良 ジャワ農村のイスラム
- 7. 加藤 博 近代エジプトの農村社会研究

アジアの宗教制度と儀礼 主任 山崎

- 1. 鎌田 茂雄 華人社会における仏教儀礼と習俗
- 2. 田仲 一成 道教儀礼と演劇
- 3. 中根 千枝 チベット社会における僧院の役割
- 4. 山崎 利男 ヒンドゥー寺院の財産管理
- 5. 鎌田 繁 イスラム神秘主義における儀礼

3. 定例研究会等 (昭和 59 年度)

5 月 31 日 (臨時研究会)

研究発表 Comparative Structures of Pre-Modern
Economic Production and Distribution
in Asia 1500-1750

K. N. Chaudhuri

討 論 濱下武志

司 会 松井 透

6 月 21 日 (西アジア部門)

研究発表 イラン革命と農村

大野盛雄

イラン 1 農村における、国王の農地改革からイラン革命にいたる 20 年間の政治的環境・経済発展・社会構造の変化、および農民達の personal history を通して、彼らが革命をどう観、新しい権力に対してどう対応しようとしているかを検討した。

討 論 松井 透

司 会 松谷敏雄

9 月 20 日 (南アジア部門)

報 告 部門の研究概況

松井 透

研究発表 南インドの米作村落の史的変容

柳澤 悠

1979~82年にかけて調査された南インド、ティルチラッパリ県、1村落の経済構造の約 120 年間の歴史的変化が報告された。とくに、土地台帳の分析にもとづく土地所有の変化と下層村民の動向や農業労働者の雇用関係の変化が論じられた。

討 論 佐藤 宏

司 会 山崎利男

10月18日 (東アジア部門Ⅰ)

報 告 部門の研究概況 池田 温

研究発表 丁若鏞『論語古今注』について
——儒教思想と近代—— 宮嶋博史

福沢諭吉、朴泳孝の近代思想の相違点を、日朝儒教思想の伝統に求め、
荻生徂徠と丁若鏞の儒教思想における「仁」の実践主体の捉え方に着目し
た。そしてこのような視点から近代朝鮮思想の思想的位置づけを試みた。

討 論 蜂屋邦夫

司 会 濱下武志

11月22日 (汎アジア部門)

報 告 部門の研究概況 山田三郎

研究発表 東アジア発展の政治経済学
——視点の整理と若干の展望—— 猪口 孝

技術化、専門化しすぎた経済学の弱点を超克し、今後の東アジア発展の
戦略的経路をさぐるために、成長・平等・世界システム・民族主義・抑圧
という5つの視点から、発展の政治経済学を構築する必要性を論じた。

討 論 関 寛治

原洋之介

司 会 山田三郎

12月13日 (東アジア部門Ⅱ)

報 告 部門の研究概況 戸田禎佑

研究発表 南宋絵画のイリュージョニズム
——絵画の素材としての“金”の使用例—— 戸田禎佑

絵画に金を用いる時、それは本来素材としてなじみにくいものであるが、南宋絵画がいかにかこの素材を用いたかをスライド影写によりつつ検討し、抑制された金の使用例をもとに、南宋絵画の自然主義的イリュージョンイズムへの志向を論証した。

討 論 蜂屋邦夫
司 会 蜂屋邦夫

3月14日 (退官教授最終研究発表)

研究発表 地域研究の方法と過程について 大野盛雄

村落共同体の成立・展開・崩壊の過程(面)と流通過程(線と点)とを基軸にした、大野教授の長年にわたる農村漁村研究の変遷史を、日本・ラテンアメリカ・西アジアにおける調査研究の数々のエピソードをまじえながら報告された。

司 会 鎌田 繁

3月29日 (臨時研究会)

研究発表 Agricultural and Economic Development
in The Netherlands and Japan,
with Reference to Some Other Asian and
European Countries.

C. L. J. van der Meer

司 会 山田三郎

4. 外国人研究員等・内地研究員・流動研究員・ 奨励研究員（昭和59年度）

〔外国人研究員等〕

氏名(国籍・現職)	期 間	研究課題	担当教官
Christopher T. NIEH (中国(台湾) Johns Hopkins 大学博士課程)	59. 4. 1~61. 3. 31	日本の対満州政策 (1930年代)	関 教 授
K. N. CHAUDHURI (英国 ロンドン大学教授)	59. 4. 10~59. 6. 10	前近代および近現代 アジアの経済構造・ 経済発展の問題点— その比較研究	松 井 教 授
N. SHANMUGARATNAM (スリランカ 日本農業研究者)	59. 4. 16~60. 4. 15	日本農業・農村研究— 新潟県月潟村の実態調査	友 杉 教 授
黄 福 慶 (中国(台湾) 中央研究院近代史研究所研究員)	59. 7. 1~59. 12. 31	満鉄調査部の研究	濱 下 助 教 授
夏 応 元 (中国 社会科学院歴史研究所副研究員)	59. 7. 1~60. 6. 30	中日関係史(前近代の 経済関係中心)	池 田 教 授
都 珖 淳 (韓国 漢陽大学教授)	59. 7. 10~60. 7. 10	韓国の伝統文化に作用 した道教・仏教の役割 と特質に関する研究	鎌 田 教 授
李 浩 昌 (オーストラリア 亜洲研究図書館長・ 採購部図書館長)	59. 9. 1~59. 11. 30	日本における書誌学 中国古典小説資料 およびその研究の現状	尾 上 教 授
裊 英 淳 (韓国 嶺南大学文科大助教授)	59. 9. 1~60. 8. 31	日本帝国主義下の韓国 における植民地的土地 変革の構造	宮 蔦 助 教 授
卞 麟 錫 (韓国 釜山産業大学教授)	59. 12. 1~60. 8. 31	東アジア古代における 韓・中・日の文化交流史	池 田 教 授
Tamae PRINDLE (米国 コーネル大学博士過程)	59. 12. 28~60. 3. 31	日本の経済小説・企業 小説に現れた日本の 社会経済構造の研究	大 野 教 授

氏名 (国籍・現職)	期 間	研究課題	担当教官
C. L. J. VAN DER MEER (オランダ グロニンゲン大学経済学部助教授)	60. 3. 2~60. 4. 1	アジアとヨーロッパにおける農業発展の国際比較	山 田 教 授

〔内地研究員〕

磯部 彰 (富山大学人文学部助教授)

研究課題 中国四大奇書の研究

担当教官 尾上教授 期間 59. 9. 1~60. 2. 28

〔流動研究員〕

藤本 幸夫 (富山大学人文学部助教授)

研究課題 中国古代禮制の研究

担当教官 蜂屋助教授 期間 59. 7. 1~60. 3. 31

〔奨励研究員〕

石橋 崇雄

研究課題 清朝八旗制度ならびに清朝内務府の研究

担当教官 濱下助教授 期間 59. 4. 1~60. 3. 31

5. 研究報告

1. 東洋文化研究所紀要

第95冊（昭和59年11月）

積華嚴教分記円通抄の注釈的研究(三)之二

鎌田 茂雄

『観心略要集』の研究

末木文美士

『太平経』の思想構造

高橋 忠彦

第96冊（昭和59年11月）

日韓併合——日本の朝鮮保護政治について——

森山 茂徳

ジャワ農民農業の地域的差違とその変容

——二つの収穫面積統計の比較検討——

加納 啓良

モンテスキューと中国——その関心と変遷——

小西 鮎子

剝奪と慰撫——Bandi（婚資）の意味をめぐる——

清水 展

貯水システムに関する考察——スリランカ灌漑

農業論の試み——

中村 尚司

第97冊（昭和60年3月）

傳ギラン州出土、圓形切子装飾臺付坏に関する考察

深井 晋司

澄観の華嚴教学と禅宗

吉津 宜英

魯迅の“第三種人”観——“第三種人”論争

再評価をめぐる——

丸山 昇

「北方左連」について——成立期を中心に——

近藤 竜哉

明末文人の戯曲観——『三先生合評元本北西廂』における

“湯若士”評の方向——

田仲 一成

インドの農業近代化の工業発展に及ぼす経済効果

藤田 夏樹

知恵者(ダトゥ)と勇者(バガニ)——ブキドノンのダトゥ・

シップと共同体の特質——

結城 史隆

死者との別れ——マレーシア潮州人漁村に見られる

葬送儀礼の事例から——

川崎 有三

人類学における記述対象の限定について

——社会と文化の存在様相に関する考察とモデル(一)——

船曳 建夫

敦煌毛詩音残卷反切の研究(中の4)

平山 久雄

故深井 晋司教授略歴・主要著作目録

大野 盛雄教授略歴・主要著作目録

2. 東洋文化

第65号 (昭和60年3月) 特集“1930年代中国文学研究”Ⅲ

新哲学論戦とデボーリン批判

陳 正醜

中国話劇運動史点描——話劇草創期の展開と悪戦苦闘——

佐治 俊彦

「上海芸大」のことども——「1930年代文芸」の一側面——

小谷 一郎

「反差不多論争」(1930年)に見る沈從文と南北文壇の

位置関係

尾崎 文昭

郭沫若の歴史小説

伊藤 虎丸

汚濁の中の哲学——「霞村にいた時」試論——

宮島 敦子

沈從文文学に於ける“常”と“変”——「近城」と「長河」

をめぐって——

小島 久代

蕭軍『八月の郷村』試論

下出 鉄男

1930年代の葉紹鈞

新村 徹

3. 東洋文化研究所研究報告

田仲 一成 『中国の宗族と演劇 華南宗族社会における祭祀組織・儀礼
及び演劇の相関構造』 1985

6. 東洋学文献センター

1. 東洋学文献センター叢刊

第43輯 「植民地雑誌」(Koloniaal Tijdschrift) 所収論文目録 1985

第44輯 校合本 大越史記全書 (中) 1985

第45輯 江西蘇区紅色戲劇資料 1985

別輯 10 孟郊詩索引 (下) 1984

別輯 11 中国經濟關係雜誌記事総目録 (三) 1985

東京大学東洋文化研究所

〒113 東京都文京区本郷 7-3-1

電話 (03) 812-2111 内線 5830, 5831

(1985.5 三秀舎)